








# 弘前第一養護学校 S D G s 通信

S D G s 通信 第3号は、中学部の取り組みをお届けします。

中学部では3年間、「SDGsを取り入れ、生活に生かせる生徒の育成を目指して」総合的な学習の時間で、「地域の自然と文化とつながっていこう、守っていこう」をキーワードに、S D G s の視点を取り入れた探究的な学習に取り組んできました。地域の自然・文化・産業に目を向け、体験や交流学习を通して考えを深める学習を重ねた生徒たちの学びの姿や成長の様子をご紹介します。

## 研究授業一覧 中学部

研究グループ	教科・単元・題材名	取り上げるSDGs項目
1学年 	総合的な学習の時間 「りんごを大切にしよう～育てよう、食べよう、再利用しよう～」	12. つくる責任 つかう責任 
2学年 	総合的な学習の時間 「花いっぱい運動」	11. 住み続けられるまちづくりを 15. 陸の豊かさも守ろう  
3学年 	総合的な学習の時間 「ねぶたについて もっと知ろう!」	11. 住み続けられるまちづくりを 



## 地域とつながる学習の広がり

中学部の学習は、教室の中だけで完結するものではなく、地域の方々や施設の方々に関わりながら、次のような学習に取り組みました。

### 【ねぶた制作体験・調べ学習】

地域に受け継がれてきたねぶた文化について学び、制作体験を通して、「伝統を守り、つないでいくこと」の大切さを実感しました。

### 【花いっぱい運動】

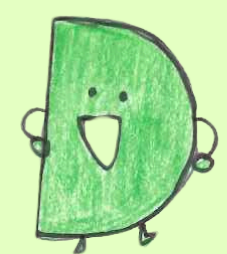
柏木農業高校の生徒から、花の育て方について学んだことを学校周辺地域への花植え活動に広げたり、地球環境や生態系などに関する調べ学習を通して、自然を大切にしようという気持ちが醸成されました。

### 【りんご農家さんへのインタビュー・工場見学、りんごをおいしく食べる調理学習】

りんごづくりに関わる方々のお話を聞き、栽培の工夫や思いを知るとともに、りんごジュース工場の見学を通して、生産から加工までの流れを学びました。また、地域の特産品であるりんごを使った調理を行い、食材を大切に使うことや、食品ロスについて考える機会となりました。

## 自然を守り、未来につなぐ学び

環境や生態系に関わる学習にも、継続して取り組みました。



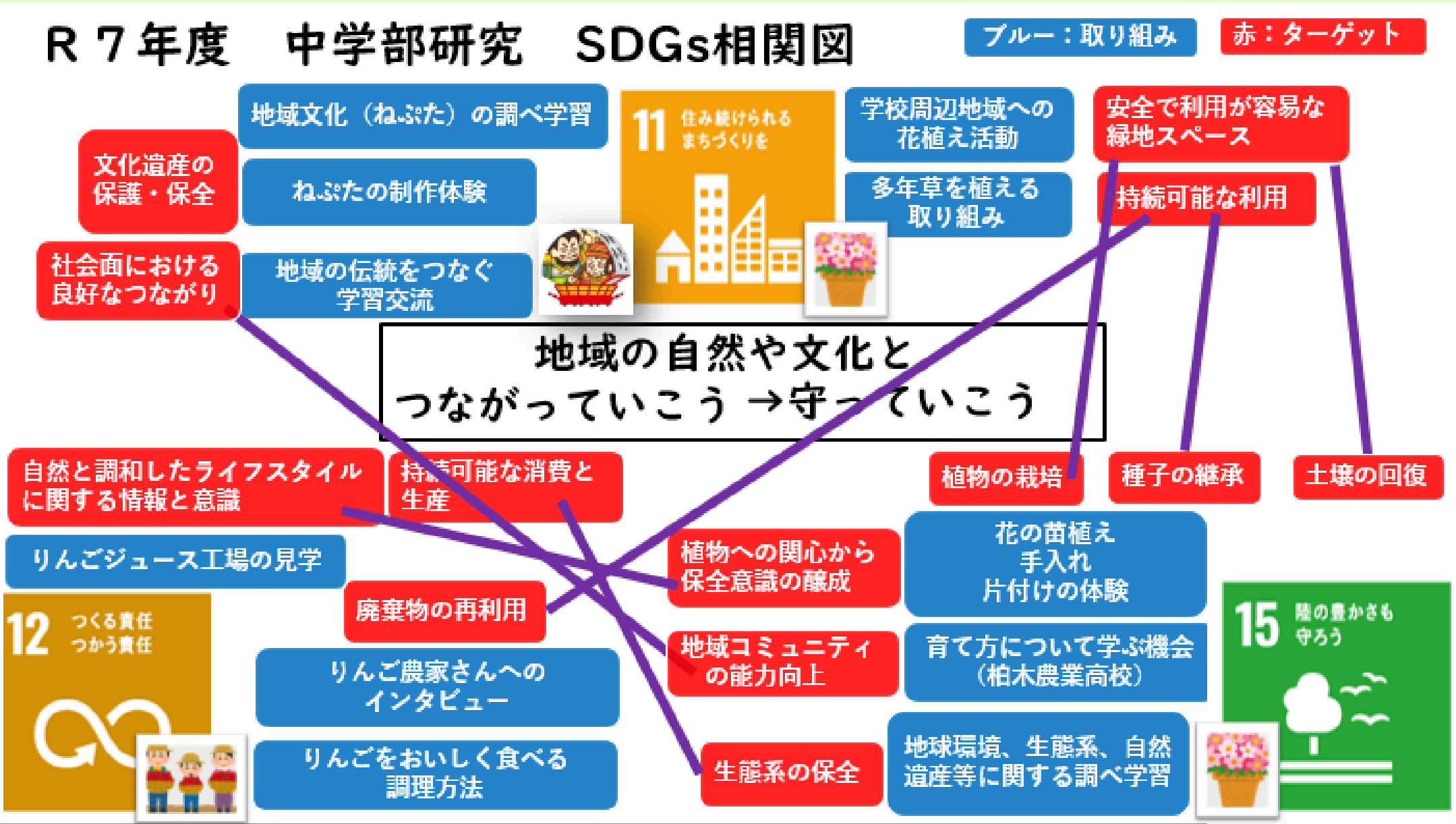
### 【学校周辺地域での花植え活動・植物の栽培と生態系への関心】

マリーゴールドやベコニアなどの多年草を中心に植え、手入れや片付けまで行うことで、「育て続けること」「守り続けること」の意味を体験的に学びました。また、植物を育てる活動を通して、土や水、環境との関係に目を向け、自然を大切にしようとする意識が育っています。

### 【環境に関する調べ学習】

身の回りの生活と環境問題がつながっていることに気づき、自分たちにできる行動について考える姿が見られました。





### 【『SDGsの視点を取り入れた授業づくり』の成果】

小学部での学びやこれまでの生活経験を土台とした探究的な学習を展開することができました。そして、SDGsの視点を取り入れたことで、地域資源を軸とし、地域との交流を取り入れ、地域とつながる授業づくりをすることができました。

「～を大切にしよう」「～を実践しよう」という育てたい力を教員が共有し、内面の育ちを大切にした授業実践を継続できたことや地域の自然、文化とつながる体験活動の設定により、生徒の興味・関心を引き出し、自ら学び、仲間と学び合う姿につながったことが成果として挙げられました。

また、生徒たちは学習に興味をもち、地域とつながり、知りたいことを見出し、友達や教師、地域の学校の生徒と対話、交流しながら、課題解決や目標に向かって進んで体験、見学、調べたり、表現したりすることができました。

### 学びを通して見られたこどもたちの姿

これらの学習を通して、生徒たちには次のような変化が見られました。

- 地域の人や自然に 親しみや関心をもつ姿
- 「なぜだろう」「どうしたら守れるだろう」と 自分から考え、話し合う姿
- 学んだことを、生活や行動につなげようとする 前向きな姿勢

中学部では、これからも SDGsの視点を取り入れた学びを、実生活や地域と結び付けながら深めていくことを目標に、授業改善を進めていきます。

地域とともに学び、考え、行動する経験が、生徒一人一人の未来につながっていくよう、引き続き取り組んでまいります。

中学部では、総合的な学習の時間のまとめ発表会が、例年1月に行われています。昨年度、1年生は、りんごの学習について「取り組んだこと」や「印象に残ったこと」を発表することにしました。印象に残ったことについては、時間の関係で、各学級から1名が発表することになり、我がクラスでは、Sさんが自分から「発表します!」と手を挙げてくれました。すると、その気持ちに応えるように、周りの仲間たちが自然と応援し始め、生徒同士のやりとりが始まりました。

Kさん：「Sさん、りんごの勉強で一番たのしかったことや、頑張ったことは?」

Sさん：「えっと（しばらく考えて）りんごもぎ!」

Rさん：「わかる～」Tさん：「おれも～」Nさん：「あ～、やったね。」

Kさん：「りんごもぎ、どうだった?」

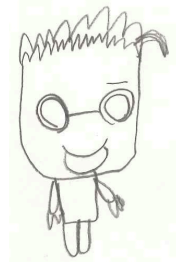
Sさん：「（しばらく考えて）……ちょっと、怖かった。」

私：「（あの風景を思い出し）高いところのりんごを取るとき、脚立に上がって、手を伸ばしたよね」

とこどもたちに声を掛けると、「わかる～」「怖かった。」「オレは大丈夫さ。」と、次々に声があがりました。

りんごをもいだその日の振り返り（11月）には、こうした気持ちは、Sさんから語られていませんでした。しかし、約2か月が経ち、その日の出来事を思い出しながら「ちょっと、怖かった」と話してくれたSさん。体験したことは、時間を経ても色あせず、発したその言葉から、「りんごもぎ体験が、心を揺さぶる学びだった」ことを、改めて感じさせてくれました。

まいこらむ



Itsuki Sato